

教科（地歴・公民） 科目（ 日本史B ） 学年（ 2 ） 単位数（ 3 ）

類型（ 文系 ） 履修規定（ 選択 ）

学習の目標		使用する主な教材					
1 歴史的な見方や考え方を身に付け、歴史的な思考力の育成を図る。 2 国際社会に主体的に生き平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養う。		・教科書『詳説日本史 改訂版』（山川出版社） ・副教材『新詳日本史』（浜島書店）					
		評価の観点 ① 関心・意欲・態度 ③ 資料活用の技能 ② 思考・判断・表現 ④ 知識・理解					
期	月	学 習 内 容	学習の具体的内容とねらい	主な評価の観点			
				①	②	③	④
一 学 期	4	第Ⅰ部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり	・日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ・水稻耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を考える。 ・古墳の変容からヤマト政権と各地の政治勢力との関係を考える。	◎	○	○	
	5	2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権 第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷	・ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考える。 ・律令に基づく国内統治体制について理解する。	◎	○	○	○
	6	2 律令国家への道 3 平城京の時代	・平城京における政治動向について、土地政策も含めて考える。 ・政治性と国際性、国家仏教の展開を踏まえて、天平文化を理解する。	○	○	◎	◎
	7	4 天平文化 5 平安王朝の形成	・平安前期を中心とした古代国家の推移について考える。 ・1学期に学習した内容を復習する。	○	○	○	◎
	8	第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治	・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考える。 ・国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、国風文化を理解する。		○	○	◎
二 学 期	9	2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	・地方の反乱と鎮圧など、武士の成長と進出過程について考える。 ・院政期の政治・経済・社会・文化を理解するとともに、平氏政権の特性について考える。	○	◎	○	○
	10	第Ⅱ部 中世 第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立	・鎌倉幕府が東国の地方政権から、全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。		○	○	◎
					○	○	◎

期	月	学 習 内 容	学習の具体的内容とねらい	主な評価の観点			
				①	②	③	④
二 学 期	11	3 武士の社会	<ul style="list-style-type: none"> ・将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ・蒙古襲来による影響が幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ・鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 ・南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について考える。 ・2学期の学習内容を復習する。 		◎	○	○
	12	4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 (冬休み課題)		○		◎	○
三 学 期	1	2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化	<ul style="list-style-type: none"> ・惣村の形成や土一揆の発生などに着目して応仁の乱に代表される幕府の動揺や衰退を考える。 ・能・狂言・茶の湯・生花など今日までつながる文化の特色について考える。 ・戦国大名や各地に展開した都市について、地理的条件と関連して考える。 ・織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について考える。 		◎	○	○
	2	4 戦国大名の登場 第Ⅲ部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権		○		◎	○
	3	2 桃山文化		○		◎	○
評価の方法	定期考査の得点に平常点（課題・授業態度・小テスト等）を加味して100点満点で各学期とも算出する。学年末の成績は各学期の成績をもとに算出する。主に、①、②、③、④の4つの観点から総合的に判断する。						